

てらこや埋文 春



『遺跡の発掘調査』を大解剖！

『学舎』へようこそ！

山口大学新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。唐突ですが、皆さんに耳寄りな情報があります。皆さんがこれから青春を謳歌するこの山口大学キャンパスの地下には、実は数多の貴重な文化財が埋もれています。なぜなら…山口大学は、「遺跡」の上に立地しているからです！この事実だけで、皆さんは他大学に進学した人々よりも「一つ得をした」気分が味わえるのではないのでしょうか。

さて、吉田キャンパス総合図書館の東隣に、平屋の小さな建物があることをご存じですか？この建物は、『山口大学埋蔵文化財資料館』という名称の教育・研究施設です。埋蔵文化財資料館の主な業務は、学内の開発工事（校舎の建設など）によりキャンパスの地下に眠る遺跡が破壊される可能性が生じた場合に、遺跡の保護を目的とした発掘調査を行うことですが、当館の最大の特徴は、得られた学術成果を様々な方法で広く学内外に公表している所にあります。資料館展示室で開催している展示活動もその一環に位置づけられます。

平成 20 年度の展示活動は盛りだくさん！

ここで、平成 20 年度の資料館展示スケジュールをご紹介します。

- 第 25 回企画展『ロマン発見～考古学者の鍬～』…平成 20 年 4 月 1 日（火）～6 月 20 日（金）
 第 26 回企画展『ロマン発見～考古学者の筆～』…平成 20 年 7 月 14 日（月）～10 月 10 日（金）
 山口考古学フォーラム第 1 回巡回展示『やまぐち復元～土器から読み解く古墳時代の山口～（仮称）』
 …平成 20 年 11 月 1 日（月）～11 月 28 日（金）
 平成 20 年度常設展『山大原風景～官衙出現～』…平成 21 年 1 月 5 日（月）～3 月 6 日（金）

春一番、第 25 回企画展『ロマン発見～考古学者の鍬～』を開催！

当館には展示アンケート等を通じて様々なご要望が寄せられていますが、中でも最も多い要望が「遺跡の発掘調査を体験したい」というものです。しかしながら、当館が実施する発掘調査は緊急に執り行うものが大半であり、また当然ながら地下の掘削を伴う作業であるため、怪我などの危険が全くないとは言いきれません。そのため、なかなか要望にお答えすることができない状況です。申し訳ございません。

そこでお詫びの気持ちも込めまして、4 月 1 日より企画展『ロマン発見～考古学者の鍬～』を開催します。2 回連続で行うこの『ロマン発見』シリーズでは、遺跡の発掘調査の意義や方法などを、皆さまにわかりやすく解説することを目的としています。その前半に当たる今回の展示では、屋外における遺跡現地での発掘調査をご紹介します。

皆さんも、テレビや新聞の報道などで遺跡の発掘調査風景を目にしたことがあると思います。しかしながら…「発掘調査の方法を詳しく知っている」人がどれほどいるでしょう？新たな知識を得る機会が、今日の前にあります。

（横山成己）



山口大学埋蔵文化財資料館 第 25 回企画展

ロマン発見～考古学者の鍬～

開催期間 平成 20 年 4 月 1 日（火）～6 月 20 日（金）

山口大学埋蔵文化財資料館 第 26 回企画展

ロマン発見～考古学者の筆～

開催期間 平成 20 年 7 月 14 日（月）～10 月 10 日（金）

開館時間 午前 9 時～午後 5 時

休館日 土・日曜日、祝祭日、8 月 13 日～8 月 15 日
 ※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡ください。
 団体のお客様に限り対応いたします。

入館料 無料

山口県内の博物館紹介 vol. 12

ながと歴史民俗資料室

ながと歴史民俗資料室は、教育委員会の一階を開放して市民に活用してもらおうとの思いが込められ、平成 19 年 1 月にオープンしました。

常設展では、県や市指定の古墳時代の出土品、350 年に渡る歴史を持つ深川窯の萩焼、農業や漁業に関わる民具が展示されています。また、俵山女歌舞伎や楽栈敷（自然地形を利用した天然の観客席）などの民俗文化財のパネル展示もあります。取材時、企画展は「湯免遺跡～弥生・古墳の面影」が開催されていました。

ユニークな試みとして展示室の 1 コーナーを貸し出しており、市民が切手や絵葉書など自慢のコレクションを自由に展示できるようになっています。講演会などの催し物の会場としても使えます。それでは、ながと歴史民俗資料室の見どころを文化財保護指導員の岡藤正作さんに聞いてみましょう。（質問）民具の展示が充実していますね。どのような点を工夫されていますか。

岡藤「長門は第一次産業で栄えたまち。農業や漁業に関する民具は質量ともに豊富で、見栄えの良いものを展示することができます。しかし、使ったことの無い道具を、文字や言葉だけで説明してもピンときません。そこで、小学生など子供が来館した折には、道具の使い方がイメージ出来るように体を動かしながら説明しています」

（質問）オープンして約 1 年が経ちましたが、今後の展望をお聞かせ下さい。

岡藤「まずは、展示のケースや台などの備品を充実させたいです。そして、資料を借用するなどして年に 2 ～ 3 回は企画展示をしていきたいと考えています」

ながと歴史民俗資料室は、長門市駅（JR 山陰本線）から徒歩で 20 分ほどの距離にあります。国道 316 号線沿いにあるため車でのアクセスにも便利です。ここでもらえる『長門市文化財マップ』を片手に、長門の文化を散策してみたいかがでしょうか。（藤野好博）



ながと歴史民俗資料室外観



企画展『湯免遺跡～弥生・古墳の面影』

お問い合わせ先
 ながと歴史民俗資料室
 〒759-4101
 長門市東深川 2660-4
 （長門市教育委員会庁舎 1 階）
 Tel 0837-23-3703
<http://www.city.nagato.yamaguchi.jp/~bunkazai/index.html>

2008 年 冬 埋蔵文化財資料館の活動

- 1 月 1/10（木）・15（火）
 吉田構内吉田寮前（吉田遺跡）にて立会調査を実施。
 1/26（土）・27（日）
 NPO 法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」との共催企画『築窯ワークショップ～野焼き体験古代人に挑戦』を開催。
 （於：社会福祉法人晩会 養護老人ホームやはず苑敷地…防府市江泊）

- 2 月 2/22（金）～3/2（日）
 第 29 回郷土を考えるシリーズ展『古との出会いー埋蔵文化財展ー』（主催：宇部地方史研究会 於：宇部市文化会館）に所蔵資料 2 点を出展協力
 2/29（金）第 24 回企画展『やまぐち古代の七不思議』終了。入館者総数 340 名。ご利用ありがとうございました。次回の展示も是非ご来場ください。

- 3 月 3/17（月）吉田構内農学部附属農場（吉田遺跡）にて立会調査を実施。



吉田構内吉田寮前立会調査風景



『築窯ワークショップ』風景

編集・発行

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
 第 12 号
 『てらこや埋文』2008 春

山口大学埋蔵文化財資料館
 〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
 【Tel/Fax】083-933-5035
 【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
 【HP】<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryokan.home/>

発行年月日 2008. 3. 31.



資料館この一品 vol. 11

総合図書館敷地の発掘調査

大学は「遺跡」の中に立地しています

山口大学は吉田キャンパスをはじめ、各キャンパスは「遺跡」の中に立地しています。当館は、1978年（昭和53）にこれら大学キャンパス内の遺跡（埋蔵文化財）を保護するために設立されました。以後、施設整備などにより、遺跡が破壊される可能性がある場合に発掘調査を行っています。今回は、新入生の皆さんにもなじみ深い場所となるはず！？の総合図書館敷地で行われた発掘調査についてご紹介します。

総合図書館敷地の発掘調査

総合図書館敷地では、1982年（昭和53）に新館が増築された際に発掘調査が行われました。この場所は遺跡保存公園の南側、姫山から西にのびた小高い丘陵の麓にあたる場所です。発掘調査では、河川や溝などが見つかり、埋土からは弥生時代前期から鎌倉時代の遺物が多数発見されました。また、時期は定かではありませんが、河川には護岸などを目的とした杭が多数打ち込まれていました。調査区の土壌を分析した結果、総合図書館敷地とその周辺には水田が存在した可能性が高いことが判明したため、河川は水田に水を引く用水路を兼ねていたと推測されます。総合図書館敷地では、弥生時代以降、北側に隣接する遺跡保存公園に存在した集落の居住者によって、水田で稲作が行われていたのでしょうか。

新入生の皆さん、図書館での勉学の合間に、時には遠い昔に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。
詳しいことを知りたい方はお気軽にご来館ください！（田畑直彦）



総合図書館現況（北西から）



総合図書館増築前（北から）



河川（南から）
護岸などを目的とした杭跡が多数見つかりました



総合図書館敷地発掘調査区全景
1982年（昭和57）（西から）



総合図書館から出土した土師器壺



総合図書館から出土した土師器椀



お食事処まいぶん vol. 4

このコーナーでは、昔の人々が使った道具を用いた、米の煮炊きの方法を紹介してきました。最終回となる今回は、今までのおさらいと、盛りつけ例を紹介します。

これまでのおさらい

①用意する道具



古代米（赤米）
弥生土器
火おこし道具

②火おこし



これは「舞いざり式発火具」を用いた方法です。

③煮炊き



強火から弱火への切り替えがポイントです。

出来上がり！



盛りつけ例



公開授業では、トチの木で出来た器や高坏などに盛りつけました。



終わりに

土器で炊いた古代米は、香りが良く、若干甘みもあり、とても美味しくいただくことが出来ました。また、周囲の気温にもよるのですが、実験では2～3時間はしっかりと保温されることが判明し、土器の保温性の高さが証明されました。皆さんも是非、古代のお米の煮炊きに挑戦してください！

（乃美友香）



喫茶まいぶん Vol. 4

このコーナーでは山口県内の史跡を紹介します。今回は、山口市大殿大路に位置する、大内氏館跡を取り上げます。この遺跡は大内氏ゆかりの遺跡である築山館跡、高嶺城跡、凌雲寺とともに、昭和34年に『大内氏遺跡附凌雲寺跡』として国の史跡に指定されました。現在、発掘調査成果を基に保存整備が進められています。

国指定史跡 大内氏館跡

当遺跡は、14世紀半ばに第24代当主の大内弘世が周防国府付近から本拠地を移転させて造営した居館跡です。周防から石見への要所に位置しており、防長両国と石見の守護に報ぜられた弘世の意気込みが窺えます。これまでの発掘調査では、館の四方を取り囲む土塁や堀、複数の庭園跡や建物跡が発見され、金箔貼りの土器や中国から輸入された陶磁器、金・銀色の瓦、古銭などが出土しており、大内氏の栄華が偲ばれます。



史跡 大内氏館跡



復元された館の西門



史跡 大内氏遺跡附凌雲寺跡 地図

この史跡はJR山口線「上山口駅」から徒歩で10分程の距離にあります。付近には、昔の町造りを現在に伝える道路区画や町並み、また大内文化の最高傑作と評される瑠璃光寺五重塔（国宝）などがあり、情緒ある文化遺産を徒歩でゆつたりと散策することが出来ます。京の都の文化を目指しつつ、キリスト教を含む大陸の文化も取り入れた大内文化を、現代の景色に探してみてはいかがでしょうか。

（藤野好博）